

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501480		
法人名	S&Nふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホームほほえみ (1階ユニット)		
所在地	札幌市白石区平和通15丁目北2-12		
自己評価作成日	令和3年3月5日	評価結果市町村受理日	令和3年4月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0170501480-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0170501480-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の方ができる限りそれまでの生活を継続できるように本人・家族と相談しながら日々のケアをさせて頂いています。月2回協力医療機関の訪問診療が入っていて緊急時も24時間連携が取れるようになっているので安心して過ごして頂けます。その方の残存能力を活かしながら出来ることを職員と一緒にやっていただき「自分も社会の一員として役に立っている」と感じて頂く事で生き生きと生活していただいています。毎日が同じことの繰り返しにならないように毎月季節に沿った行事やレクリエーションを取り入れ笑顔で過ごしていただける時間を作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里グループホームほほえみ」は公園や月寒川が流れている自然豊かで静かな住宅街に立地している。吹き抜けでガラス張りの広いエントランスには、ベンチや植栽コーナーがあり四季を通して多目的用途に活用でき、共用空間は明るく広々とした造りで和室やセミパブリックスペース、トイレは各ユニットに5か所ある。今年度は感染症対策のため地域交流は自粛であるが、例年、町内会のお祭りや盆踊りに参加し敬老会にはお祝いが届けられ、ボランティアの受け入れ、認知症サポーター養成講座の協力、同法人隣接事業所と連携した行事、また外出支援も様々な場所へ出かけている。昨今は職員のアイデアや趣味特技を活かした豊富なゲームや季節行事を催し、ラジオ体操やストレッチ、畑作業や周辺の散歩など、介護スタッフとして何ができるかを深く考え毎日が張りのある暮らしを目指す支援に尽力している。脳梗塞であった利用者で職員との地道な立ち上げりの練習により本人のやる気を引き出し前向きな気持ちになり、遂にはトイレでの排泄が可能になったり、パーキンソン病の利用者では手引き歩行が可能になるなど医療と協働したりハビリ支援や日々の本人の変化の対応や予想を兼ねた介護計画も特筆できる。設備の更新や研修体制など運営法人のバックアップ力や管理者による総合的なマネジメントは元より、職員の専門性に基づく介護力が高い。地域密着型サービスエキスパート的存在の一つの事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア内に理念を掲示し常に意識できるようにし、カンファレンスで理念に沿ったケアを検討している。	パンフレットへの明示や事業所要所へ理念を掲示している。来年度、職員と話し合い現状に合った新たな理念を作成する計画がある。利用者の生活の再編を目指しており、理念の実践が窺える。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前は町内会のお祭りや盆踊りなどの行事に参加できていた。	左記の自己評価のほか、自肅以前は町内会子ども神輿との触れ合いや敬老の日に祝いが届けられ、フラダンスボランティアの訪問や隣接事業所に訪れるよさこい演舞などの見学も行ってた。現在は、毎月1回資源回収の協力を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は入館制限もあり対面では行えないが電話などで相談等あった場合は助言している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催しその場で頂いた意見をサービス向上に活かしている。現在は書面開催の為普段ご家族様と電話などでのやり取り等の中から個々に合わせたサービス向上に繋げている。	令和2年7月(対象期間5~6月)より書面にて報告している。この2年間では事故報告、職員配置状況、年度予定、感染症対策、火災・震災対策、アンケート結果と今後の取り組み内容等の協議や通知を行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入退去、事故等の報告を行い助言・指示を頂いています。	運営上の案件については法人本部やエリアマネージャーが市の担当窓口に出向いている。市の担当者から感染症対策等に係る資料を得たり、アンケート調査への協力等で連携している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を3か月に1度、身体拘束研修を半年に1度全職員を対象に行っていて理解している。職員間でも声を掛け合い取り組んでいる。施錠は1階外玄関を防犯上夜間帯のみ施錠を行っている。	身体拘束等の適正化のための指針を定め、3か月に1度不適切ケア防止委員会を開催している。事案や予防・防止に関する業務内での取り組みについて協議している。今年度は4月・10月にこれらに係る内部研修を実施している。毎月、身体拘束適正化の取組実施状況確認表を法人に提出し適正化に向けた実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時や定期的な研修を行い虐待防止に努めている。		

ふれあいの里グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の中に成年後見制度を利用している方がおり新たに必要性を感じご家族様から相談があり制度を開始をされた方もいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前に契約書や重要事項説明書の説明を十分に行っている。又、改定などの際にも疑問点などその都度説明し理解を得られている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から意見や要望を言って頂けるような関係づくりに努めている。	ホームページ、事業所便りでの情報発信や運営推進会議録を送付し、状況を通知して意見を出しやすくしたり、法人本部による家族アンケートを実施し意見等を得る仕組みがある。家族から面会についての意見や利用者から職員へ生活の智恵の伝授などもある。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度のカンファレンスの他にも日々気になることは管理者に言える環境づくりをしている。	管理者による定期の面談の仕組みはあるが、現在は必要に応じ個別に面談する機会の頻度が高い。職員が一連の業務に精通できるよう輪番で業務を担当し実践力の向上を図ると共に一緒に話し合いながら調整している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と話し合う機会を作るよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用者に対しては業務の振り返りシートを活用し、できていること、できていないことの可視化を図り向上に努めている。E-ラーニングを活用し全職員が研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はグループホーム連絡協議会に参加していたがコロナ禍になってからは協議会は行われていない。職員が同業者との交流を持てる機会は今はほとんどない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話しに対してできる限り傾聴と理解をしケアを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意向を理解し信頼構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や本人の希望、支援について意向に沿うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	著しい環境変化が無いようできることは今まで通りやっていたりよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に本人の生活状況を伝えたり状況に合わせた本人らしい生活とは何かをご家族と一緒に考えて支援している。コロナ禍で面会ができなくなっているがリモート面会を始めたことでご家族が顔を合わせられる機会の提供を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会ができないがリモート面会や電話の取次ぎなどをして馴染みの方との関係性が途切れないよう支援している。	知人や友人の来訪や家族宅への一時帰宅や外泊などを行っている利用者、馴染みのひと時として受診後にランチ外食を楽しむ利用者がいた。昨今は家族とのリモート面会や電話での通信をサポートしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人孤立しないよう配慮し、時には職員が間に入り会話を拓けるよう支援している。レクリエーション等を行い入居者様同士が関われるよう支援している。		

ふれあいの里グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後に施設側から積極的に連絡することはできないが、ご家族様から連絡頂いた時はアドバイス等させていただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを尊重し希望に沿うよう努めている。	日々の生活の中で直接本人から意向や希望を聞いたり、難しい場合は何が本人の願いなのかを家族から情報を得て職員間で話し合い検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	極力生活環境に大きな変化が無いように事前に生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	適時体調確認を行い一人一人の心身状態に合わせるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1度のカンファレンスで意見を出し合いより良い支援ができるよう計画に努めている。	毎月のカンファレンスでは個々のモニタリングやアセスメントを繰り返し、要望や変化に応じてより良い支援を検討している。家族や医療関係者の意見を踏まえ、課題や目的を明らかにした本人本位となる介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化は記録し、送りや連絡ノートなども活用し情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じ何が最善かを相談しながら支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今はコロナ禍の為出前などの外出の伴わない地域資源の活用のみ行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回協力医療機関の訪問診療が入っていて特変時は24時間連絡が取れる体制が整っている。以前からのかかりつけ医に関してはご家族と話し合い必要時には職員が付き添い受診が来ている。	協力医療機関による定期往診と歯科の定期検診や必要時の往診、月2回の訪問看護の体制を整えている。歯科と連携した口腔衛生管理に取り組んでいる。週1回看護師へ健康管理記録を提出し、適切な医療支援につなげている。	

ふれあいの里グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護の他に毎週一人一人の状態を記した健康管理記録を訪問看護師に提出し医師と連携を取っていただき指示を頂いている。また急な変化の時は電話連絡などで適切な受診ができるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護添書を持参し重要なことは口頭でも伝えている。また、入院中は定期的に連絡を入れ状況把握をしながら早期退院に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に必ず説明を行っている。訪問診療医師・看護師に相談しながら本人・家族と話し合っており支援できている。	「ご利用様が重度化した場合に係る指針」を定め、利用契約時に説明している。医師の判断に基づき、関係者間で今後の方針を取り決めている。移行支援に当たっては事業所が直接病院へ問い合わせを行うなどサポートしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を行い急変時、事故発生時に備えている。連絡体制の整備も行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回自衛消防訓練を行い、災害時には協力体制が取れるよう日頃から町内会とも話し合いができています。	今年度は2月に日中・火災想定避難訓練を実施し、3月24日に火災・夜間想定訓練の計画を上げている。地域との協力体制を確保している。災害備蓄品の確保、非常災害対策計画・社会福祉施設避難確保計画・火災等災害予防マニュアルを整備している。	対象災害である水害(洪水)による浸水や地震想定訓練、一時避難場所や収容避難場所への経路を辿る訓練等を実施する意向であるのでその実現に期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の思いを尊重し羞恥心等にも配慮した声掛けをしている。	本人が安心できる声かけに努めている。入職時より対人援助に係る研修体制があり、意識づけを行っている。個人記録はデータ保存している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい関係性を作るためできる限り入居者様の話に耳を傾けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを考えながら1日を有意義に過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	配色や組み合わせを一緒に考えながら洋服を選んだり鏡を見ながらご自分で身だしなみを整える事ができるよう支援している。		

ふれあいの里グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	目で見て食べたくなるような盛り付けにも工夫している。もやしの芽取りや野菜の皮むき、食器ふき等できることは職員と一緒にしていただいている。	通常の献立や季節行事食以外にお寿司や丼物の出前、寒い日には寄せ鍋、職員の手打ちうどん、畑の食材も食卓に上っている。さつま芋餡のどら焼きや桜餅も利用者と一緒に手作りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の口腔状態、嚥下状態を考えて個々に形態を変えて提供できている。体調不良が続き食事がとれない方には訪問診療医師と相談しながらエンシユア等併用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食ごとに口腔ケアの促し、確認、介助を行っている。また、協力医療歯科と連携を取り訪問診療や助言をいただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	適時声掛けし誘導出来ている。カンファレンス等で必要性を確認し合いながら無駄をなくしている。	毎日個々の排泄状況を記録している。日中において誘導や排泄介助が必要な利用者への個々のパターンや習慣による支援は元より、夜間帯では睡眠時間との関係性等も考慮しつつ対応に努めている。退院後、衛生用品が不要となった事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操やストレッチなどを行い水分摂取の声掛けをしている。排泄チェックを毎日行い適時腹部マッサージや温タオルなどで温めたりしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調・身体確認を行い声掛けしご本人と相談しながら入浴できている。	基本午前中の時間帯で毎日入浴可能な態勢を整えている。本人の良いタイミングを見計らっての声かけや入浴に導く誘い方を工夫している。自ら湯道具を準備する利用者もいる。浴室ではタオルを渡し、できる場所で力を発揮してもらえるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣やその時々状況に応じ支援できている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬情を確認できるようにしてあり特に薬の変更があった時は送りなどで周知確認ができている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月四季折々の行事を企画し楽しんでいただいたり長年されてきた家事などを職員と一緒に張り合いのある生活ができるよう支援している。		

ふれあいの里グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今はコロナ禍で外出はできていないが中玄関が広いのでそこで花見行事などをしたり中玄関にクリスマスツリーを飾りフロアーから出て眺めに行ったりしている。	自肅以前は白石神社の初詣やお祭り、平岡梅林公園、羊ヶ丘展望台、八紘学園、札幌地下歩行空間など時々飲食も兼ね出かけていた。今年度は左記自己評価にもある風情を味わう催しや公園への散歩、畑作業などできるところでの支援となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本金銭管理はご家族がしていて本人は所持していません。本人から要望のあったものは施設で立替えて職員が買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望される時は職員が取り次ぎながらかけたりご家族とのリモート面会等の支援が出来ている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分には季節を感じられる装飾をしたり温度・湿度などにも気を配っている。	エントランスはガラス張りの吹き抜けで広々とした空間であり多目的に活用できる場でもある。ダイニングとリビングそれぞれの空間と和室もあり、季節感ある装飾に配慮している。共用空間と居室間の廊下の動線は比較的他者との距離が保てる設計である。床暖房、エアコンの設備により居心地のよい室温を調整している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間と食堂があるので本人の希望に沿って使い分けられている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具等を置き自宅と変わらない環境を作り落ち着いて過ごせるよう工夫している。	色を違えた和風の居室ドアは落ち着いた雰囲気である。室内はクロゼット・カーテンが備え付けられ、本人の馴染みの家具や調度品が置かれ自作の絵画なども飾っている。趣味事の川柳やラジオ・テレビ視聴など思い思いに落ち着いて過ごせる環境を設けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行導線の確保を行い安全に努めている。トイレや居室等名前や写真を貼りスムーズに生活が送れる工夫をしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501480		
法人名	S&Nふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホームほほえみ (2階ユニット)		
所在地	札幌市白石区平和通15丁目北2-12		
自己評価作成日	令和3年3月5日	評価結果市町村受理日	令和3年4月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様一人一人の想いや希望を受け止めその人らしく生活できるよう最大限サポートしています。ラジオ体操など毎日行っている事だけではなく毎月季節に応じた行事を行ったり、施設敷地内の畑では入居者様と一緒に季節の野菜を作り収穫の喜びや懐かしさを感じて頂いています。また、今までの生活の延長で食器拭きや洗濯物たたみ等できることを職員と一緒にやっていただく事でご自身の役割が出来日々充実した生活を送っていただいています。行事ごとに施設のブログを更新し、ご家族様や興味のある方に見て頂いています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvogyoCd=0170501480-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvogyoCd=0170501480-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年3月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほほ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほほ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほほ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほほとんどない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほほとんどない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほほ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほほとんどない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほほとんどない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほほとんどない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほほ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほほとんどない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時やミーティングの際確認しあいながら日々実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前は近隣の理髪店や公園、神社などに出かけたり地域のお祭りに参加し交流を図っていた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍もあり今は地域間での相互交流は行われていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は2か月に1度書面で現状報告を行いその間電話などで伺った意見を反映させている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月入退去情報や介護度の変化によるサービス等の利用について連絡を取っています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を3か月に1度、身体拘束研修を半年に1度全職員を対象に行っていて理解している。日々の声掛けにも気を付けている。フロアー玄関の施錠は24時間行っていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時や定期的な研修を行い虐待防止に努めている。		

ふれあいの里グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新入職者の中には分からない職員もいるので研修の機会を設けたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前に契約書や重要事項説明書の説明を十分に行っている。又、改定などの際にも疑問点などその都度説明し理解を得られている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族様から直接意見や要望を頂いた時は運営の改善に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスで職員の意見や提案を出してもらい改善に繋げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務体系の改善など職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用者に対しては業務の振り返りシートを活用し、できていること、できていないことの可視化を図り向上に努めている。E-ラーニングを活用し全職員が研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はグループホーム連絡協議会に参加していたがコロナ禍になってからは協議会は行われていない。職員が同業者との交流を持てる機会は今はほとんどない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報収集を行い本人や家族の思いを受け止めカンファレンスを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との連絡を積極的に行い要望を聞いたり不安を解消することで信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況を把握しニーズに合った支援を提供するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で出来ていたことを継続して続けて頂いたり職員の知らないことを教わったりしながら一方的な関係にならないよう努める。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的にお手紙で近況を伝えたり今後の生活について相談したりと共に暮らしを考えるような関係づくりに努めている。コロナ禍で面会ができなくなっているがリモート面会を始めたことでご家族が顔を合わせられる機会の提供を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や面会制限もあるがリモート面会などを利用し支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立することが無いよう気の合う方同士が傍になる様に席を配慮したり、職員が間に入って関りが持てるように等支援している。		

ふれあいの里グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後に施設側から積極的に連絡することはできないが、ご家族様から連絡頂いた時はアドバイス等させて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で本人の想いや希望を確認している。困難な場合は家族と話し合い支援を検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に情報を確認しアセスメントシートに反映している。新たな情報は随時追加している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定をし体調管理に努めている。また、日々の変化を記録し職員間で情報共有を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケアカンファレンスをし3か月毎にモニタリングを行い本人の生活を精査した上で現状に即した支援を行えるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化などを記録し情報共有を行っている。必要時はカンファレンスで話し合い検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出支援は現状難しいが、新しい試みとしてリモート面会を始めるなどして今できる支援を考えながら取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は近隣の理容室などの利用もできていたが現在はコロナ禍の為地域資源の利用は出来ない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回協力医療機関の訪問診療が入っていて特変時は24時間連絡が取れる体制が整っている。以前からのかかりつけ医に関してはご家族と話し合い必要時には職員が付き添い受診が出来ている。		

ふれあいの里グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護の他に毎週一人一人の状態を記した健康管理記録を訪問看護師に提出し医師と連携を取っていただき指示を頂いている。また急な変化の時は電話連絡などで適切な受診ができるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護添書を持参し重要なことは口頭でも伝えている。また、入院中は定期的に連絡を入れ状況把握をしながら早期退院に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に必ず説明を行っている。訪問診療医師・看護師に相談しながら本人・家族と話し合っており支援できている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を行い急変時、事故発生時に備えている。連絡体制の整備も行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回自衛消防訓練を行い、災害時には協力体制が取れるよう日頃から町内会とも話し合いができています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた言葉遣いや本人が不快に思わないような対応ができています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい環境づくりと自己決定できるような会話方法を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人本位のサービス提供を心掛けその方のペースを大切に個別支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に服を選んでいただいたり髭剃りなど身だしなみを整えて頂いている。要望があるときは時々マニキュア等もしている。		

ふれあいの里グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや配膳、後片付け等出来ることは職員と一緒にやっていたい。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせ刻み食やトロミ剤を使用している。食事量、水分量は記録し摂取量が少ない時は本人の好む形態の物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食ごとに口腔ケアの促し、確認、介助を行っている。また、協力医療歯科と連携を取り訪問診療や助言をいただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し出来るだけ失禁前に行けるように支援している。リハバン、パット等本当に必要かどうかを見極めながらできる限り身体的、金銭的に負担が無いよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックと同時に水分量、食事量のチェックを行い下剤の調整など必要に応じて訪問看護師に相談し適切な支援を心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望を優先し良いタイミングで入浴して頂けてる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して眠れるよう環境整備をしたりほんの習慣に合わせた支援を行っている。必要に応じて午睡の支援もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調変化などがあつたときは必ず薬情の確認を行い訪問看護師に相談し変化に対応できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月四季折々の行事を企画し楽しんでいただいたり長年されてきた家事などを職員と一緒にやり張りのある生活ができるよう支援している。		

ふれあいの里グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出行事はできなくなっているが制限が解除になったら入居者様の要望で温泉の計画を立てようと思っている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本金銭管理はご家族がしていて本人は所持していません。本人から要望のあったものは施設で立替えて職員が買い物に行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望される時は職員が取り次ぎながらかけたりご家族とのリモート面会等の支援が来ている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分に季節や行事の装飾をしたり居心地よく過ごせるよう綺麗にしたりと工夫している。冷暖房により快適に過ごせるよう配慮している。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食席にも配慮し気の合う方同士で座れるよう心掛けている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時本人・家族と相談し以前の生活で使用していたものを置けるよう支援している。思い出の写真など飾ることで本人の生活空間だと感じて頂けている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活に応じた家具の配置などをし安全に過ごせるよう配慮している。名前をつけることで自立に繋がられている。			

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホームほほえみ

作成日：令和 3年 3月 31日

市町村受理日：令和 3年 4月 2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火災想定避難訓練は年2回行っているが、水害による浸水や地震想定訓練が行えていない。	浸水や地震を想定した避難所までの避難誘導訓練を行う。	コロナ禍の現状においては、職員のみ避難所までの経路や障害となるものが無いか現地確認を行う。また、コロナが落ち着いた時期を見計らい、実際に入居者様と避難所への経路を移動する訓練を行う。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。